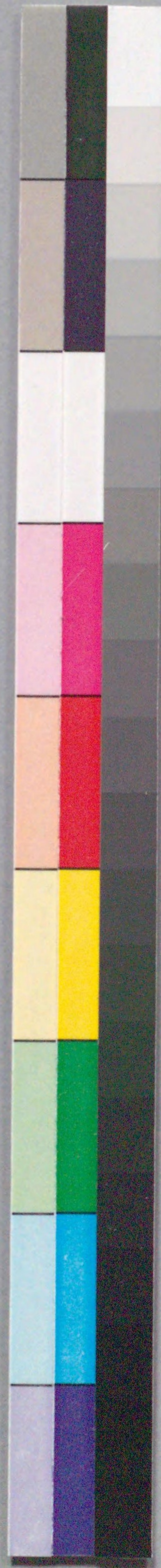


国立国会図書館 商人金の采配 3巻 208-586

ガラス使用







親ハ持子ハ樂とする孫を合する也  
世の傍に眞の情を一生  
主親戚存の字を若と讀ぎ孫とある音血の傍に一生  
余の番人となりて其子に傳ふる子ハ安んず不憚りて金ハ  
通りの心得湯の如くはるかにして傳ふるハ借  
金をとちし孫に傳ふるにて孫の心へ負被る意  
あつらひたるをたすまはたり是れ其の孫に傳ふる以上を  
は兼持天國とす  
是れ其の孫に傳ふる以上を  
是るにたは怒りあるの誠を著しし編り十返舎  
筆の如くはるに急を捕し母の徳士



戊辰春

十字亭主人誌





6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9

試  
筆  
くらわのふかきぬる花の枝より  
梅の赤車も十返舎一九哉

福後の口をひひらのま  
福くあまのまふちやうめ  
をうぐわうけうのざしき  
あひんあんぞう大せうと  
あひんあんぞう大せうと  
まころたきざうふえおれた  
川柳集のせんむまうら  
あめうけのびんぞうが  
らうらきとらうらうら  
よしくねねるびんぞう  
のけそいけまじらうら



あひんあんぞう大せうと  
まころたきざうふえおれた  
川柳集のせんむまうら  
あめうけのびんぞうが  
らうらきとらうらうら  
よしくねねるびんぞう  
のけそいけまじらうら

あひんあんぞう大せうと  
まころたきざうふえおれた  
川柳集のせんむまうら  
あめうけのびんぞうが  
らうらきとらうらうら  
よしくねねるびんぞう  
のけそいけまじらうら



あひんあんぞう大せうと  
まころたきざうふえおれた  
川柳集のせんむまうら  
あめうけのびんぞうが  
らうらきとらうらうら  
よしくねねるびんぞう  
のけそいけまじらうら























































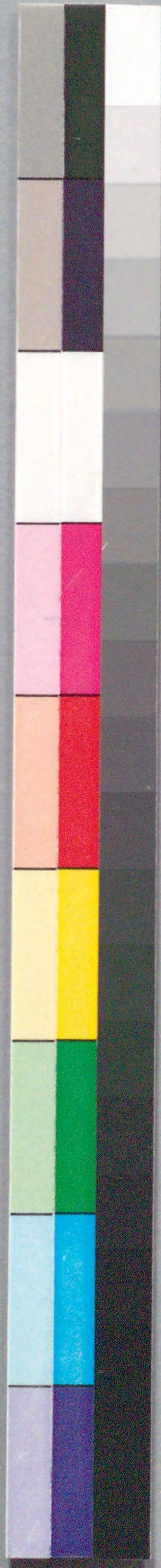




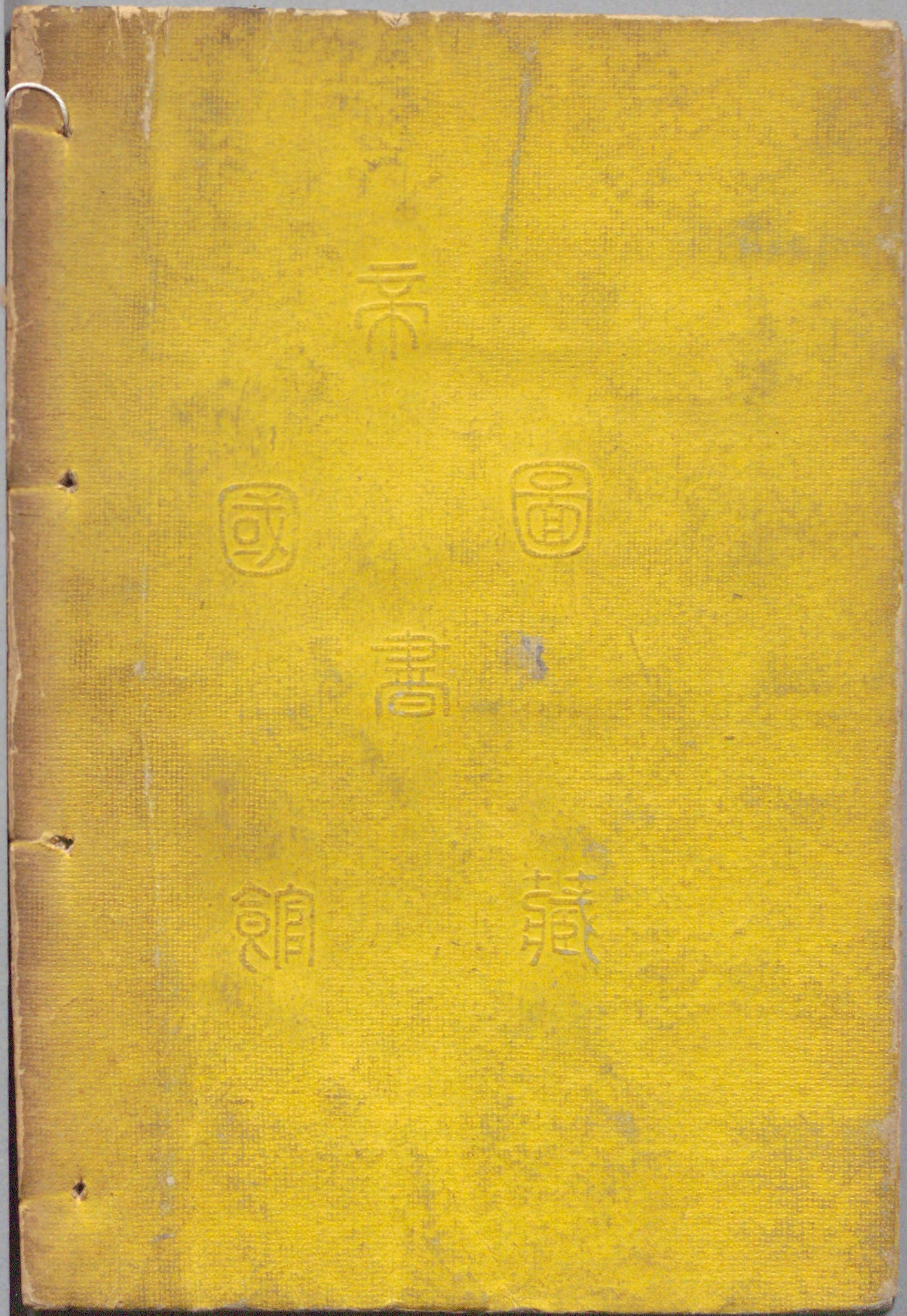
208  
586







国立国会図書館 商人金の采配 3巻 208-586



ガラス使用

